

経営委員会からのご報告

(1) 海外経営者セミナー

開催日：2025年10月15日（水）～10月19日（日）

場所：シンガポール

旅行会社：名鉄観光サービス株式会社

参加者：8名

本年度は2年ぶりに、シンガポールにて海外経営者セミナーを開催いたしました。全5日間の内容をお伝えします。



© (一社)日本バスケットボール協会



© (一社)日本バスケットボール協会

ナショナルスタジアム前での写真撮影

1日目：10月15日（水）

午後9時、羽田空港第3ターミナルに集合。結団式は行わず、参加者同士で自己紹介を行い、午前0時過ぎの便でシンガポールへ向け出発しました。

2日目：10月16日（木）

午前6時10分、チャンギ国際空港に到着。夜間フライトの疲れと眠さが出て、全員で空港のカフェで一休憩。午前9時、専用バスでマーライオン公園へ。マーライオンの口から吹き出る水を利用して、髪を洗うふりをしたり、水を受けて飲み込むふりをしたり、思い思いにポージングし、写真撮影を楽しみました。午前10時半、OCCBCアクアティックセンター（世界水泳2025

会場プール）のサブプールとナショナルスタジアムの観察。プールでは、2025年5月に競泳シンガポール代表コーチへ就任した石松正孝氏に話を伺うことができました。施設自体にさほど驚きはありませんでしたが、石松氏が肌で感じたシンガポールと日本の水泳指導の違いをお聞きすることができ、日本の水泳指導に確信を得ることができました。水泳のみならずスポーツ全般に関心が高い参加者の皆さんにとって、もしかしたらナショナルスタジアムの方が、興奮度が高かったかも知れません。サステナブルをテーマに設計されたスタジアムは、地球環境にも配慮された冷房設備を備えており、圧倒されました。また、今回は特別に、あのサッカー／クリスチアーノ・ロナウドも使用した選手ロッカールームなども見学することができ、大満足の様子でした。午後1時半、昼食は名物のチキンライス。薬膳スープも身体に染み渡りました。午後3時、マリーナベイ・サンズ（貯水ダム）見学。午後4時半、ホテル到着。夕食は午後6時半から、これまた名物のチリクラブ。夜は現地ガイドの計らいで、夜景を楽しみました。

3日目：10月17日（金）

午前10時、地元のスイミングクラブ「SINGAPORE SWIMMING CLUB」の視察へ。このクラブは1894年に創設された歴史あるクラブで、50mプールとは別面で25mプール、球技などの練習場もあり、日本とは違ったスケールの施設に、一同はただただ驚くばかりでした。代表のYee氏と参加者が、互いの国の指導や設備、スタッフの待遇や募集について質問し合い、学び合う様子が印象的でした。正午過ぎにマリーナベイ・サンズ展望台を目指すも、雷雨の予報により入場は叶わず。午後は自由行動。と言えども、一部を除きほぼ団体行動でした（地元スイミングクラブスタッフに英語で直接交渉し、午後のレッスンを見学しに行った積極的な参加者もいました）。一行は地下鉄で Telok Ayer 駅へ。午後1時、オパサ・フェスティバル・マーケットの屋台で昼食。シンガポールならではの多国籍料理を、お腹いっぱい楽しみました。ここから2班に分かれ、観光に行く人の班は、午後1時50分、Bayfront駅へ。午後2時からはクラウド・フォレスト（温室植物園）の見学。巨大全面ガラス張りドームの中には高さ35mの滝が流れ落ち、低温多湿な雲霧林が再現され、世界各国から集められた約1,900種・5万株もの植物を観察することができました。午後3時50分、前日のリベンジで念願のサンズ・スカイパーク展望デッキへ登頂成功。マリーナ湾を見渡すことができる美しい眺めでしたが、日本で高所からの景色は見慣れている一行からは、ベイ・サンズは登るものではなく、遠くから見るものだと声も・・。午後5時50分、夕食はまたまた名物のペーパーチキン（甘辛タレが染み込んだ鶏肉が紙の中に閉じ込められている）を皆でいただきました。

4日目：10月18日（土）

終日自由行動。現地の知人に会いに行く参加者もいれば、異国の文化・日常を楽しむ参加者もいました。

5日目：10月19日（日）

午前5時半、羽田空港到着、解散。直前のキャンセルで参加できなかった方も居り小規模な一団となりましたが、その分、沢山語って経験を分かち合い、参加者同士の繋がりが深まった気がしました。参加者の皆さん、ありがとうございました。



©(一社)日本スイミングクラブ協会

【海外経営者セミナーの様子】

OCBC アクアティックセンター（世界水泳会場）サブプールと、
同プールを拠点に指導を行う、石松正孝シンガポール競泳代表コーチ



地元のスイミングクラブ「SINGAPORE SWIMMING CLUB」



(2) 第39回全国トップマネージメントセミナー

開催日：2025年11月25日（火）～11月26日（水）
場所：江陽グランドホテル（宮城県仙台市）
特別協賛：江崎グリコ株式会社
協賛：ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社
講師：【講演Ⅰ】伊藤 清隆 氏（リーフラス株式会社 代表取締役CEO）
【講演Ⅱ】久米 隼人 氏（こども家庭庁 支援局総務課 こども性暴力防止法施行準備室長）
【情報交換会】高木 淳 氏（株式会社プライムセンス）
コーディネーター：【講演Ⅱ】安藤 大作 氏（日本民間教育協議会 会長）
参加者：105名

第39回全国トップマネージメントセミナーが、11月25日（火）宮城県仙台市の江陽グランドホテルで行われ、103名が参加しました。変わってはいけない真に大切なものを見抜き、守り続けていくことが強く求められる今、「『紡ぐ』—子供たちの未来に向けて—」をテーマに、リーフラス株式会社の伊藤清隆氏と、こども家庭庁の久米隼人氏、さらに講演Ⅱのコーディネーターとして日本民間教育協議会の安藤大作氏からご講演をいただきました。また情報交換会Ⅰの「新時代の溺水事故検知技術」では、株式会社プライムセンスの高木淳氏より、テクノロジーでプールでの溺水事故を防ぐをテーマに、安全監視システムについて発表していただきました。

講演Ⅰでは、「社会の課題解決に向ける志・組織づくりと人材育成」と題し、伊藤氏より、スポーツスクール数や会員数で国内トップを誇るリーフラス(株)が考える社会課題とは何か?を中心に、子供たちの未来に向けたスポーツを通じた取り組みについてお話しいただきました。講演Ⅱでは、久米氏より、「子どもを性暴力から守る社会の実現のために—こども性暴力防止法の施行に向けて—」と題し、こども性暴力防止法の施行が間近に迫る今、我々にとって重要な情報を分かりやすくご説明いただき、子供たちを犯罪から守る我々の役割について考えることができました。さらに、昨年の当該セミナー講師であり、日本版DBSについては政府の会議に参加、要望書を提出するなど中核に関わってこられた安藤氏を進行役に迎え、パネルディスカッションを行いました。参加者からは積極的な質問も飛び、来年12月の施行に向け、関心が高まっていることが分かりました。さらに情報交換会Ⅰでは、「新時代の溺水事故検知技術」と題し、高木氏より、子供たちの安全を守る新テクノロジーとして話題の「水泳帽に装着する溺水検知タグ」についてご紹介いただきました。カメラを使わずプライバシーを守ることができる・瞬時に水没状態を検知し救助に繋げ、事故を未然に防げる・従来のプール監視システムより低コストというメリットをもつ同社の開発商品をもとに、スマミングの未来像が見えてくる内容でした。参加者の事前アンケートでは、自社プールの安全監視体制に不安があると答えたクラブが68%でしたが、施設運営における人員不足や、監視員の経験・能力の差による事故の見逃しを、テクノロジーの力を借りて補うことが出来るか、参加者も興味深く聞き入っていました。いずれの講演内容も、参加された皆様から好評をいただきました。貴重なご講演をありがとうございました。

翌26日（水）は、オプションとして、松島・南三陸観光バスツアーを開催しました。参加者は21名で、ホテル → 日本三景松島 → 道の駅さんさん南三陸（さんさん商店街、東日本大震災伝承館など）→ 道の駅東松島 を観光し、大盛況に終わりました。次年度は関東支部で同セミナーを開催する予定です。皆様のお越しをお待ちしております。

【第1日目：第39回全国トップマネージメントセミナーの様子】



特別協賛会社挨拶
江崎グリコ株式会社
執行役員 セールス本部長 若槻 修吾 様



主催者挨拶
(一社) 日本スイミングクラブ協会
会長 三宅 泉



協賛企業PR
ソニーネットワークコミュニケーションズ 株式会社
成田 治樹 様



講演Ⅰ 講師
リーフラス株式会社
伊藤 清隆 氏



講演Ⅱ 講師
こども家庭庁
久米 隼人 氏



講演Ⅱ コーディネーター
日本民間教育協議会
安藤 大作 氏



情報交換会 講師
株式会社プライムセンス
高木 淳 氏



第二部情報交換会
締めは参加者全員で声高らかに！
「永・泳・謳！」

【第2日目：オプション 松本市内観光ツアーの様子】



①瑞巌寺にて集合写真
晴れ間にニッコリの皆さん
素敵な笑顔です♪



②日本三景 松島
あいにくの雨で本来の美しさとまでは
行かず・・リベンジしようかな・・！



③さんさん商店街のモアイ像
まさに東日本大震災後の復興のシンボル
となる道の駅でした・・。

ご参加ありがとうございました！
次回は関東支部での開催を予定
しております。
またお会いしましょう！

